

スリーハート

第8号 平成25年 12月 19日 (木) 発行

新たな出会いとふれあい 価値あるものに！

『交流活動』を中心に据えた教育活動を進めてきた甚西丸。先月、学習発表会を終え、大きな行事は一段落しましたが、その後も子どもたちは、新たな出会いとふれあいの中から、多くのことを学び、“人”としての成長の階段を上り続けています。今号に掲載してある「親子標語」づくりや文字職人・杉浦誠司さんの「夢めっせ一字」講演会を通して、子どもたちは、地域の方々とのふれあいを深めるとともに、自分の生き方・あり方を見つめ直してくれたようです。これからも、一つ一つの出会いが価値あるものとなるよう、さまざまな活動を計画・実施し、子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

スリーハート運動「親子標語」

12月5日(木)

甚西小では、毎年、学校・家庭が協力し、規範意識の高揚と人権モラル向上をめざした標語づくりに取り組んでいます。親子で知恵を絞って作った標語300点以上の中から、3点の優秀作品を選び、1枚のポスターにしました。この日は、5、6年生の児童が、地域の公共施設や民間の商業施設などに、掲示の依頼に出かけました。このスリーハート運動には、親子標語を広く地域の方々に知っていただくことで、学校と家庭に地域を加えた三者で、子どもたちの健やかな成長を支えていけるようになればとの願いが込められています。



標語ポスターを教頭先生に手渡す児童
- 甚目寺中学校 -



標語ポスターを手に記念撮影
- 甚目寺郵便局 -



- 西光寺掲示板の標語ポスター -



標語ポスターを掲示して下さる住職
- 西光寺 -

「夢めっせ一字」講演会

—文字職人・杉浦誠司さんをお招きして—



12月3日(火)

漢字の中に、その言葉の真意を教えてくれるかのようなメッセージが書き込まれている作品を“めっせ一字”と言います。多治見市在住の杉浦誠司さんは、「文字職人」として、そんな文字を作り続けてみえます。

杉浦さんの夢は「僕に関わった方が笑顔で元気になり、幸せになる事」である。“めっせ一字”を書き始めてからというもの、作品を見て、「元気なれた!」、「勇気をもらった!」、「感動したよ!」などという反響が、数多く寄せられているそうです。書道を習ったこともなかった杉浦さんは、当然、自分の文字に自信などもてるはずもなく、少しずつ、自分の文字を“認めてあげる”ことができるようになったのは、“上手く書こう”から“想いを伝えよう”という考えに変わった瞬間からだそうです。

杉浦さん自身、幼少期にいじめられた体験をもち、辛い思いをしてきたことから、制作活動の傍ら、子どもたちに夢をもつことの素晴らしさとともに、いじめ根絶への願いを込めた講演活動に取り組んでみえ、この日、甚西小へお迎えすることができました。

いじめ根絶への熱い思いとともに、夢をもつことの素晴らしさ、皆とつながれば夢は必ず叶う…など、杉浦さんの思いは子どもたちの心にしっかりと響いていました。



“やさしい”という文字で書かれた作品「花」



—子どもたちの目の前で思いを書き—



—完成した杉浦さんの書「明(みらい)」—

未来を明るく照らすは
己のあきらめない心
前に進む勇氣
その心に素直に生きれば
仲間のありがたさに気付き
感謝の心で
道は照らされる

—書に込められた杉浦さんの思い—



昔のくらしを体験

—美和歴史民俗資料館の方々を招きして—

12月13日(金)

あま市には美和歴史民俗資料館があり、「米づくりと昔のくらし」「郷土の歴史とくらしの道具」をテーマとした民俗資料が数多く展示されています。この日は、民俗資料館の職員の方を招き、「昔のくらし」について学習しました。洗濯板やかや、押し寿司を作る道具に火鉢など、実物を目の前にしながら、子どもたちは目を輝かせながら説明を聞いていました



「お寿司は昔のごちそうなんだあ〜」
—押し寿司の道具—



「こんな道具を使っていたんだあ〜」
—お酒の徳利や火鉢—